

報道関係者 各位

作者は
島原にゆかりの
あるご当地作家



全編!
島原市が
舞台の
コミック
発売!

島原城、浜の川湧水、
サンシャイン中央街、
なはん像、足湯など
島原の風景が登場!!

島原市を舞台とするコミック『働いたら負けだと思ってた』の作者である右野マコさんがコミック発売に合わせて市長を表敬訪問されました。右野さんは島原にゆかりのあるご当地作家で、物語のなかで島原のリアルな風景がたくさん登場します!

本物語は幼馴染の「タカシ」と「ゆうた」が一緒に楽しく無職生活を満喫していたところ、母親に強制社会復帰をさせられてしまい、市役所のシティアピール課で働くことになると、なぜかイケメンに大変身! その容姿を武器に、島原の観光名所を紹介することになってしまい……!?

島原のことを知っている人も、知らない人も、楽しめるストーリーとなっております。

カドコミで無料配信中 (第1話~第3話)

『働いたら負けだと思ってた』

https://comic-walker.com/detail/KC_005455_S/



1 市長表敬概要

■と き 令和6年4月9日（火） 11時～

■ところ 島原市役所 市長室

■市長表敬者 著者 右野マコ 氏

(株) KADOKAWA 山本佳奈 氏（編集担当）

(株) KADOKAWA 架谷華蓮 氏（営業担当）

(株) KADOKAWA 仲田大輔 氏（宣伝担当）

■市長表敬内容

（市長）

- ・島原の細かなところまで掲載していただき感謝いたします。
- ・島原を大切に思っている作品だと感じることができ、市民の方にも是非読んで欲しい作品だと思いました。

（著者：右野 氏）

- ・祖父が島原に在住していたので、幼い頃から島原を訪れていました。
- ・作中に登場する島原の方言は、『幼き頃の祖父の方言』を思い出しながら表現しましたが、実際に方言を文字にするのは表現が難しかったです。
- ・作中に登場するお店の承諾をいただきに訪問したところ、どこの方も即答で承諾していただきました。島原の皆さんの優しい人柄が印象的でした。
- ・コミックでのオススメの話は、第8話で登場する島原のお店ですね。島原名物の「具雑煮」や「かんざらし」、幼い頃に祖父に連れられて行ったお菓子屋さん、島原の「皿うどん」、馴染みの喫茶店が登場します。



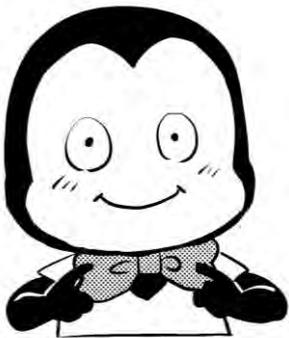
※著者の右野さん（右）は顔出しを控えておられますのでアイコンキャラクターを重ねております。



※直筆サイン入りポスターは、島原市役所・しまばらん窓口「とるっと」にて展示



2 著者プロフィール



(著者自画像アイコンキャラクター)

右野マコ (みぎの まこ)

2012年に漫画家デビュー。長崎県在住。

美しいイラストとコミカルな作風のギャップが持ち味。

以前、島原に在住していたことから、ゆかりのある島原市を舞台にした『働いたら負けだと思っ』(KADOKAWA)が4月9日に発売。

他作品に『田舎の美少年』(KADOKAWA)、

『恋愛フラグ0女子の迷走』(KADOKAWA) などがある

3 著者コメント

幼い頃からゆかりのある大切な島原を作品の中に詰め込んでみました。市民の皆さまや、島原から離れられている島原ご出身の皆さまにも楽しんでいただければと思っております。

4 島原市担当者コメント

本作品は大三東駅や歴史ある島原城だけでなく、著者のゆかりあるカフェや菓子屋さんなど島原の魅力がギュッと詰まった作品となっています。また、地元の方にはなじみ深い「島原弁」も含まれており、なかには島原市の温かみも感じるができるやり取りも！イケメンになった「タカシ」と「ゆうた」が織りなす、脱ニートを目指すコメディー物語！とても楽しい物語になっております。

本市では本作品を契機に、コミックファンなど新たな客層へも島原の魅力を広く PR できるよう、関係各所と連携を図ってまいります。

5 掲載素材について

書影、市長表敬時の写真等のデータにつきましては、ご連絡いただけますと、シティプロモーション課広報戦略班から提供いたします。

(直通 0957-61-1652 / メール koho@city.shimabara.lg.jp)

未来へつなぐ島原らしさ 暮らし続けたい、訪れてみたい、魅力あふれるまち



担当：島原市シティプロモーション課
ロケツーリズム班 担当 佐藤・本田
電話：0957-61-1652（直通）
E-mail：promo@city.shimabara.lg.jp

